

2011年(平成23年)度入学生 工学部第1部、建築学部、情報学部、 グローバルエンジニアリング学部カリキュラムについて

工学院大学では建学以来の伝統を受け継ぎ、科学技術立国の中核となるべき優れた実践力を備えた技術者の育成を目指してきている。また、こうした伝統を踏まえつつ、情報化社会に国際的な活躍ができる人材の育成を目指し、2006年度から、2つの新学部を開設した。さらに2011年度から建築学部を開設した。こうした新たな学部体制での具体的な教育方針として、次の6項目を定めている。

1. 専門教育においては、基礎となる専門知識、専門技術を身につけるだけでなく、問題解決型の実践的な応用力が修得できる教育内容とする。また、教育の集大成として卒業研究(卒業論文、卒業設計・ECP(Engineering Clinic Program)など)に重点をおき、各人が社会で自信を持って活躍できる基礎となる特技を持てるようにする。
2. 単に技術に強いだけでなく、自然と人間が織りなす複雑な現実社会で、健全かつ総合的な判断が下せる技術者に育つことを期待する。このため、人文科学、社会科学、芸術、保健体育などの総合教育科目も重視する。
3. 国際社会で活躍できる技術者となるために不可欠な語学力を身につける。特に英語によるコミュニケーション能力については、特別プログラムを設け、強化を図ることとしている。
4. 本来高等学校で学習しておくべき内容について、未履修などによって学力不足であるケースに対しては、学習支援センターを設け、基礎学力を補い、専門学習への適応力を高めることができる体制とする。また、専門学習の基礎となり学習意欲の効用を図るための導入教育を充実している。
5. 社会で活躍できる資質の裏付けとなる資格として、卒業とともに取得できるものには、学士のほか各種の資格、受験資格がある。特にJABEE(日本技術者教育認定機構)は、1プログラムが他大学に先んじて認定を受け、現在は3プログラムが認定されている。このほか、在学中に取得できる資格や免許については、積極的に取得の支援をする。
6. 学問、技術の進歩発展に適応でき、より高度な教育課程に進むことができる力を身につけることができるようにする。成績優秀な4年生には、大学院科目が受講できる制度を設けている。

上記の方針に基づき、時代の要請に応じた教育内容を系統的かつ効果的に学習できるように、主体的に各自の創造力を活かした履修とその実践に力を入れてほしい。平成18年度から、現在の新しい学部体制が発足している。新学部新学科は、当然ながら新しいカリキュラムであるが、工学部の既存の学科のカリキュラムも、常に時代への適応に配慮してきている。

工学部、情報学部、グローバルエンジニアリング学部の授業科目は総合教育科目、専門共通科目および専門科目の3群構成、建築学部の授業科目は2群構成になっている。卒業に必要な総単位数は124単位である。なお、卒業履修要件については、各学科の項を参照していただきたい。

工学部、情報学部、グローバルエンジニアリング学部

第Ⅰ群 総合教育科目

社会や人間に対して、深い洞察力を持った人材に育つための基礎となる科目であり、次の5科目区分よりなる。

- a) 総合文化科目
- b) 外国語科目
- c) 保健体育科目
- d) 自由研究科目
- e) キャリア支援科目

第Ⅱ群 専門共通科目

工学、情報学、自然科学の基礎を学ぶ科目である。

- a) 共通基礎科目—数学、物理学、化学等自然科学の基礎となる科目ならびに情報処理概論及演習などの科目
- b) 専門基礎科目—当該学科の基礎となるもので、共通基礎科目と専門科目とを接続する役割を持つ科目

第Ⅲ群 専門科目

当該学科の専門を学ぶための科目，卒業研究（卒業論文・卒業設計など），ECP、その他教職課程などに関連した科目

建築学部

A群 総合教育科目

社会や人間に対して，深い洞察力を持った人材に育つための基礎となる科目であり，次の6科目区分よりなる。

- a) 総合文化科目
- b) 自然科学系科目
- c) 外国語科目
- d) 保健体育科目
- e) 自由研究科目
- f) キャリア支援科目

B群 専門科目

- a) 必修科目
- b) 選択必修科目
- c) 選択科目
- d) 卒業研究